

平成 13 年度版

ごあいさつ

平成 13 年度 首都圏支部総会開催される

話題提供 「仕事の構造」

桔梗会だより 桔梗会を振り返って

遠久朶寮生集いの会について

再就職 20 年を迎えて

消費者運動から区議会議員へ

「京都散策」

「榎本先生御叙勲を祝う会」開催

薬窓会のホームページ

「食の未来への遺産と警鐘」

中小病院におけるインターネットを活用した情報活動

製薬会社に就職して

ゴルフクラブだより

100 字通信

編集後記

以上の内容は、第 47 号 平成 14 年 4 月 「首都圏 遠久朶」 富山薬窓会首都圏支部発行 で紹介されています。

(なお、該当号の「首都圏 遠久朶」電子記録は、2025 年 6 月時点で富山薬窓会ホームページに掲載されていた HTML 形式のみのため、その内容を複写して本ファイルを作成しました。)

ごあいさつ

首都圏支部長 (42 年卒) 庄 司 孝 市

富山薬窓会首都圏支部の皆様、21 世紀初めの年を迎えいかがお過ごしでしょうか、各分野でご活躍のことと存じます。私は昨年 7 月より支部長をさせていただいている庄司でございますが、紙面を借りて一言ご挨拶申し上げます。

言うまでもなく昨年から今年にかけては国際的には米国での貿易センタービルの爆破やそれに続くアフガニスタンの空爆は世界の人にも衝撃を与え経済的にも大きな損失となりましたが、宗教の絡む問題は難しいことを痛切に感じさせられました。また日本でも株価低迷と引き続く経済不況、小泉政権延生と外務省問題、狂牛病とその後の企業の不正問題とあまり楽しくないニュースの多い時期でもありました。

この小雑誌を見る人の中にも比較的多くの人に関連することとして、医療制度の抜本改革の問題があります。常に最初は抜本改革が始まるが最後は数字合わせの薬価削減で帳尻を合わせて終了します。世の中に大勢の人間が住み、多くの意見があるということは大変難しいことであります。

しかし世の中は動くものの毎年同じ頃に桜が咲き、秋に稲が実り、冬に雪が降るという自然の流れに変化がないことはうれしいことであります。私自身も自然に心をうつし静かな気持ちで毎月を過ごしたいと思う今日この頃です。今年の総会は昨年同様大手町に新装なった産経会館を用意してございますが、皆様には是非ご出席いただき、同窓あるいは同級の絆を強めて頂ければ幸いです。

平成 13 年度 首都圏支部総会開催される

幹事長 (47 年卒) 松 本 茂外志

平成 13 年 6 月 2 日 (土) 午後 3 時より新装になった大手町のサンケイホールにて、約 70 名の参加をいただき、来賓として本部より森 正雄会長、大学から倉石 泰教授をお迎えして平成 13 年度の首都圏支部総会が開催された。

佐藤副支部長の司会でスタートし、岩崎支部長は挨拶の中で自分は同窓会の中では若年と思っていたが、会社では停年を迎える年齢になってしまっていて、気が付けば卒業して 30 数年の間に後輩が大学を巣立っている。これら若い人たちを結集するように努力はしてき

たが、現実には難しく一層の検討が求められると話された。活動報告、会計報告、予算案に対し審議いただき了承された。

ゴルフ同好会及び桔梗会のお世話をいただいている 40 回卒の千原秀夫さんと 48 回卒の定留温子さんから活動報告をいただき積極的参加を呼びかけた。平成 14 年、15 年度の新役員を選出があり、次の通り決まった。支部長 庄司 孝市（42 年卒）、副支部長 竹内 美千代（42 年卒）、石橋 嘉夫（43 年卒）、中西 憲幸（48 年卒）、幹事長 松本 茂外志（47 年卒）の各氏です。

森会長は今度の参議院選挙に藤井氏を支援したいと挨拶された。倉石教授からは独立行政法人化に向けた大学の統廃合にあわせて、本学の研究論文数と他大学との差異をパワーポイントで示し、本学の頑張りを強調された。さらに昨年時間が少なく充分聞くことができなかった「なぜ痒いのか」の講義を引き続きお願いし、痒みを起こすのはアミンだけではなく、様々なメデイエータが存在していることを、実験を通した話を交えて教えていただいた。

5 時過ぎから中西副支部長の司会の下、基常先輩（29 年卒）の乾杯のご発声で懇親会が始められた。その後会場に藤井氏も駆けつけご挨拶をされたが、各テーブルでは一緒に写真を撮りながら激励をうけていた。時間のたつのも忘れ大いに盛り上がったが、締めは 82 回、平成 7 年卒の鏑木君にお願いし、来年の再会を誓った。

本部便り 薬学部の近況報告

学内常任理事 倉 石 泰

国立大学は、政府の行財政改革の一環として、16 年度から独立行政法人化され教職員全員が非公務員型になります。独立行政法人化された場合、大学に交付される運営交付金の額は、学生定員に基づいて作成されたモデルケースに従って決定され、大学の中・長期計画と評価により増減されることになりそうです。

運営交付金の中には、教育・研究のための経費だけでなく、教官と事務官の給与なども含まれますが、教育、研究、給与などの用途の規制はなくなります。予算の弾力的運用が可能で、例えば、高給を提示して国際的に活躍している研究者を教官として迎えることも可能となる反面、教授（高給取り？）が多い体制では研究のための配分額を削減せざるを得ないことになります。

医薬大としての独立行政法人化後の生き残り策を議論していたときに降って沸いたのが、

国立大学の再編・統合問題です。文部科学省の意向もあり、富山大学、高岡短期大学との 3 機関で再編・統合の話し合いを重ねていますが、今のところ一番の障害は、富山大学に独立行政法人化後に生き残るための真剣な検討がなされている姿が見えてこないことです。国立大学に経営感覚が求められる時代に薬学部が生き残り益々発展するにはどうすれば良いのか、難しい選択を迫られています。

最近の薬学部卒業生の進路については、2 つの特徴があります。一つは、大学院進学率の増加です。平成 10～13 年度の卒業生の大学院進学者数は、48、55、60、64 人と漸増してきました。薬学研究科博士前期課程への入学者数でみると、平成 6 年度の 32 名に対し、平成 13 年度は 69 名と倍増しています。反対に激減したのが、製薬企業への就職者数です。最近 4 年間、就職者数は 1～4 名でした。就職協定が廃止され、多くの企業の採用活動が学部 3 年次の 11 月頃から始まり、4 年次春に最盛期を過ぎてしまう現状では、学部卒で製薬企業に就職するのは極めて困難です。したがって、製薬企業への就職を希望する学生は、博士前期課程に進学し、1 年次の 11 月頃から就職活動を開始しています。

旧帝大は、重点化により教官組織としての薬学部はなくなり、薬学研究科の教員が薬学部の教育も兼任する体制に変わりました。千葉大などの他の薬学部は、医学部と統合して類似の制度に変えてきています。全ての薬学部が、大学院の教員が学部の教育を兼任する体制を指向しているのは、教育・研究をする大学と、学部（と修士課程）の教育を専門とする大学との差別化が進むとの考えからです。

本学薬学部も医学部と統合して生命医薬科学研究科（仮称）のような独立研究科を設置し、大学院の教員が薬学部の教育をする体制への改革を目指しています。薬学部教育に関しては、平成 14 年度からの新たな授業として、多様な分野の第一線で活躍されておられる薬窓会会員に非常勤講師として来ていただき、仕事の内容と面白さなどの話していただくことを計画しています。その際には、首都圏支部の皆様にもご協力をお願いすることになりますので、どうぞよろしくお願いします。

話題提供 「仕事の構造」

（46 年卒）上 田 宗 央

日本の失業率は 5%を超え、今や 6%に届こうかという勢いで過去最高を更新しています。中でも中高年層の失業率は高く、非常に深刻な状況であるといわざるを得ません。この問題の要因は一体何かと考えた時、私には日本の「仕事の構造」がその要因であると思えて仕方がないのです。

私は 20 代から 40 代にかけて、約 15 年間、欧米で仕事をしていました。日本とのビジネス習慣の違いには悩まされたことも多々ありましたが、逆に考えさせられるものも多くありました。例えば"定年"に対しての考え方もそのひとつ。日本では 60 歳になると一律に定年がやってきます。最近では"再雇用"制度なるものも一部の企業で取り入れられていますが、いったんは会社が決めた"定年"に従うことが一般的です。

しかし、欧米では自分の"リタイア"は自分で決めるものであり、極端に言えば、30 代でリタイアする人もいれば、70 歳を超えてもビジネスマンとして活躍する人もいます。自らのライフプランにあわせて"リタイア"を決めるわけです。このことから、日本と欧米における仕事と環境には大きな違いがあることがわかります。しかし私は、最も大きな違いは、「仕事の構造」におけるものではないかと感じています。一言で言うと、日本の仕事は会社規模の大・中・小に関係なく、すべて包括的でジェネラルなものとなっています。だからこそ、日本でよい仕事をするために必要な能力のファクターは、「体力」、「気力」、「経験・知識」。どれかが秀でていればよいのではなく、これら全てが必要とされます。年齢を重ねると、経験や知識は確かに蓄積されるのですが、体力、気力はどうしても若い頃と比べると衰えてしまう。仕事は経験や知識のみを必要とするのであれば、年齢とともに有利になりますが、日本の仕事は包括的であるため、年をとるということは、マイナス要素となってしまうのです。

一方、欧米では、仕事そのものが細分化されて組み立てられています。そのため、体力、気力を必要とする仕事もあれば、そうではない仕事もある。つまり、年齢を重ねて得た知識や経験をより活かすことができ、年齢そのものがハンディキャップにはならないのです。日本でも中高年のベテラン人材が年齢をハンディキャップではなく、最大の武器として利用できる、つまり、"とった杵柄"を活かせる社会にしなければならない。そのためには細分化された仕事を創ることが一番ではないかと考えるのです。

"アウトソーシング"は企業の不得意分野、非効率分野を"外部資源の活用"によって、より高品質で付加価値の高いものにするという経営手法です。現在、"アウトソーシング"自体は急速に企業に浸透し、様々な業務がその対象となっています。しかし、大掛かりな業務だけでなく、細かな業務もその対象となりうる。それが"マイクロアウトソーシング"という新しい手法です。

例えば、"営業"と一口に言ってもマーケットの調査からプレゼンテーション、或いはフォローや CS 調査などのメンテナンス業務もあるし、回収などの仕事もあります。これらを全て得意としてやっている営業要員などを見た事はありませんし、管理職にしても各々得意、不得意があるのが常です。このような業務をひとくくりで"営業"と呼ばずに細分化してしまえ

ば、おのずから個人の得意な能力、才能がより効率的に使えるようになる。個人にとっても、自らが成長する期間は勉強の為に何でも新しい事に挑戦することは大切ですが、ある程度の年齢になって自分の能力のアウトプットを世に活かそうと考えると、広い範囲の能力への期待には辛いものがあります。むしろ得意分野だけを活かしてもらいたいと思うでしょう。ところが、一つの会社では一つの細分化された能力を一人分使いきりだけの仕事量が無いのが実情です。従って、弁護士や会計士のように、多くの会社に対してひとりの能力を少しずつ貸し出すというしくみが必要となってくるのです。

"マイクロアウトソーシング"が進めば、個人が細分化された仕事を"アウトソーサー"として受ける仕組みが広がります。豊富な知識や経験を有する中高年層の活躍の場も拡大するでしょう。しかし同時に、個人が働きやすい環境や社会制度を整えることも必要です。日本では社会保障制度ひとつとっても、"正社員"を中心に制度が組み立てられており、個人やパート、アルバイト等の非正社員にとっては不利な社会となっています。米国では SOHO など個人事業主が 4200 万人もいるのに対し、日本では 250 万人にも満たないというのがその環境のもたらす顕著な差であるといえるでしょう。

日本のもう一つの構造改革＝「仕事の構造改革」を早期に進めなければなりません。人々が自分の能力に自信を持ち、自発的にリタイアを設計できる社会、そんな「仕事自立社会」の実現に向けて、私自身も努力していきたいと考えています。(了)

桔梗会だより 桔梗会を振り返って

(37 年卒) 川 村 博 子

桔梗会発足以来の会員です。二女が小学校 1 年生でした。その娘も早 30 才。その間、長期・短期のお休みも致しましたが、何とか今日迄続いています。薬剤師の肩書がある以上、薬剤師としての生涯学習は義務と思いながらも、最近やっと打込める様になった所です。その一歩として、桔梗会は、良い場だと思っています。

現在は「1 目でわかる臨床検査」に取り組んでいます。5 月頃に終了となり、その後のテキストは目下検討中です。又、「薬剤師のための実践英会話」は副読本として、テープを聞きながら、声を出して勉強しています。

昨年 5 月下旬、近くの旧古河庭園へお弁当持参でバラ園見学に出かけ、見事なバラ、その名前はカトリーヌ・ドゥヌーブ、プリンセス・ミチユ、クイーン・エリザベスなどで彼女等の面影を忍び写真に収めたりして、一時を楽しみました。その後、会場に戻り、勉強会を始

める熱心さです。2 年に 1 度 1 泊旅行もしています。現在の在籍者は 14 名ですが、仕事や健康上の都合で集まるのは大体 10 名足らずです。

常時、会員募集しておりますので、どうぞ、お勉強と情報交換のおしゃべりに来て下さい。又会の活性化に何かご意見などありましたら、お聞かせ戴ければ幸です。 毎月第 3 土曜日 PM1:00~4:00 頃迄、会場は JR・地下鉄南北線王子駅側の北トピア。 お問い合わせは、48 回生 定留温子氏迄

遠久朶寮生集いの会について

(32 年卒) 大 杉 光一郎

富山市岩瀬浜に聳え立つ?、今は無き私達の住処を偲ぶことを常に考えていましたが、平成 13 年 11 月 17 日(土)に待望の遠久朶寮生集いの会を開催することができました。富山薬窓会首都圏支部総会に出席すると周囲の先輩・後輩が遠久朶寮にて学生時代を過ごした人が多くて自然に寮時代の話になり昔を懐かしむことが多いことから、一度遠久朶寮生集いの会を結成すればとなり、誰が企画するかの問題で 4~5 年が過ぎてしまいましたので、平成 13 年には何とか作ることを考えなければと思い、小生が音頭とりとなり各学年の方に依頼し、同期の方で遠久朶寮で生活をした人の名簿作成に入りましたところ、全国で約 200 名位(完璧のものでない)の寮生がいることが判りました。遠久朶寮は、何年頃から存在したかは不明ですが第 37 回卒業生(昭和 24 年)から第 56 回卒業生(昭和 44 年)までを現在把握しております。

名簿が完成したので開催時期の決定を考える必要があり、平成 13 年中に開催することを考え、アンケートにより 11 月 17 日に決定しました。開催会場は、どこにしようかと思いましたが、日本橋が東京の薬業界の中心でもあり、交通の便も良好であると考え、日本橋の[千疋屋総本店]に設営し、連絡の範囲をどこまでにするかと思案しましたが、とりあえず首都圏在住者にて会合を持って、その後のことは、のちほど検討することにして、首都圏在住者約 70 名に案内状を発送させて戴きましたところ 30 数名方から出席のご返事を頂戴し、勇気づけられ遠久朶寮生集いの会を開けたことを感謝しております。会合は、川上氏・にお願いし、開催の挨拶を上塚氏・に戴き会を始め、その後卒業順に思い出を各人が語り、昔の懐かしさを思い出しながら、古き良き時代の学生生活をかみしめながら談笑の花が咲き賑やかに会は進行して行きました。

出席者は年配者が多く、若い人[若い人でも 60 歳近い]が少なかったのは残念でした。54 回~56 回卒業生は寮の廃止問題もあったようです。

しかし、出席者は皆今は無き遠久寮寮を偲んでその時代に帰ったような感じがしました。談笑の中で同じような会話がありました。「それは我々の学生時代は遠久寮寮の生活がすべてであった。」寮の生活がなかったら学生生活の楽しみも半減したのではないか？。古い写真を新しい技術で拡大した写真を回覧して思い出を楽しんでいましたし、何十年ぶりに見た自分の変化に驚いている人もあり、その時々光景を見ていると楽しみが湧いて来ました。

兎角第 1 回目の遠久寮生集いの会は盛会裏に終わり、校歌を斉唱して、又再会を約束して散会しました。次回は平成 14 年に第 2 回目の会合を持ちたいと思っております。次回は開催地は東京を考えていますが、案内状は全国の寮生にお送りするつもりでおります。名簿が完全ではないですので、この文章を読まれて自分も遠久寮寮の生活を 1 日でもしたことがある方はご連絡ください。まとまりのない文章となりましたことをお詫び申し上げます。

再就職 20 年を迎えて

(42 年卒) 小木曾 周 子 (株式会社大島椿本舗 取締役研究開発室長)

20 年前の初秋、子供達は小学校 4 年と 2 年に成長したのにもかかわらず、進歩しない自分、怠惰な生活に嫌気がさし、取り残されるという焦燥感から株式会社大島椿本舗の門を叩きました。連れ合いは、気まぐれ主婦の我儘も 1 ヶ月でお手上げするだろうと判断し、パートタイマーならば子供にも負担がかからないからと気持ちよく OK をくれました。研究開発室とは名ばかりの部屋の雰囲気は、ぬるま湯にどっぷり浸かっていた私でも何とかなると錯覚を起こさせたのですが、次第にのめりこんで、いつのまにか会社人間だの、仕事中毒だの言われるようになってしまいました。アトピコシリーズの開発に携わり、植物油は乳化が難しい、無謀な事を考えるな、と言う社長を説得して何とか軌道に乗せた事が、はらはらドキドキの仕事人間の始まりでした。しかし、20 年をどうにか過ごせたのは、家族が健康でいてくれたからの一言に尽きます。そして、職場の指導者、仲間にも恵まれていたと思います。勤め始めた頃は、男女雇用機会均等法の今とは違い、男性の 2 倍働いてやっと 1 人前と認められるという時代でしたので、意地を張った時期もありましたが、次第にマイペースとなり、気がついたら労働者代表になっており定年 5 年延長を勝ち取ったりしたのも振り返れば良い思い出です。

小さな化粧品会社ですから、新製品開発は勿論、品質管理、製造工程管理、薬事上の許認可業務、特許関係、人事・労務関係、OEM メーカーとの折衝、原料関連の仕事、製造機械のメンテナンス、お客様の電話サービス、見学者の応対等何でも屋で、お節介も程々にしたらと言われそうな程、様々な内容の話が飛び込んできます。そんな中で一番要求される事は、

集中力でしょうか。次々起こる問題に対処する時も、限られた時間の中で処方を組む時も、あらゆる知識、情報、経験をかき集めて検討します。又、近年は専門分野をさらに細分化していく方向ですが、弱小メーカーでは色んな事をこなさなくてはならず、力もないのにあるかのごとく振舞う技も何時の間にか身につけてしまいました。

少しツバキ油の事にふれますと、ツバキ油は有史以来日本で愛用されている安全性・安定性の高い植物油で、そのまま化粧品にする他、ケン化や乳化して化粧品を作ります。植物ブームの昨今、更に何かできないかと考え、ツバキ油活性剤を作り、INCI(International Nomenclature for Cosmetic Ingredients)に登録したり、微量成分の分析に取り組んだりしていますが、これらを配合した化粧品がデビューできるまでに何年掛かるのでしょうか。イメージ商品であった化粧品の世界も、研究会では遺伝子、ゲノムと言う単語が飛び交い、のんびりしていられなくなりました。

最近 20 代の有能な人を 2 名迎えました。飲み込みも早いし、処理もスマートにきびきびと働くのを見るに付け、世代交代の時期が来たと感じています。全力投球できるのも後 2,3 年でしょう。出来る事なら、初心に帰って新製品の開発に取り組みたいし、弊社商品の有用性の評価法も確立したいと考えています。拙文を書き連ね大切な首都圏遠久栄の紙面を埋めてしまった事をお詫び致します。

消費者運動から区議会議員へ

(42 年卒) 森 川 礼 子 (世田谷区議会議員)

薬剤師免許を持ちながら、全く畑違いの区議会議員をしているちょっと変わった同窓生として書かせていただくことになりました。

大学を卒業して 4 年ほど薬剤師として働きましたが、子育てで家庭に入り、環境問題や食品安全に関心を持って生協の共同購入に参加し、学生時代とは別の角度で「安全」や、「健康」ということを実践的に学んだように思います。例えば、今問題になっている狂牛病のことで考えてみれば、大学で学んだのは検査で定性・定量的に安全域にあればよし、ということでしたが、私の入っている生活クラブ生協では、綿密で正確な検査体制よりも、生育過程や流通過程が消費者にも透明であることの方が、本質的に信頼できる、と教えられました。

生産者と消費者の交流や学習会に参加してそのことを実感し、20 年も活動を続けてきました。しかし残念ながら全ての人・全ての物が共同購入できるというわけではありません。社会全体が食べ物の安全を確保するためには法律や制度が必要であり、身近な区議会や都議

会に代表を出して変えていこう、ということになりました。私も世田谷区で始めは仲間の女性を担ぐ側でしたが、1991 年に自分が立候補する立場になり、厳しい選挙戦を仲間の女性たちの総力で勝ち抜いて今 3 期目（11 年目）です。

環境問題や保健衛生分野を中心に、市民・消費者・女性といった立場で、調査や学習会をしながら、議会活動をしております。 私たちのような議員が増えるにつれ、男性中心で利権構造そのものだった議会もこの 10 年でずいぶん変わりました。薬学部で学んだ知識が直接役立つことはめったにありませんが、論理的に考え、企画し、発表する力は学生時代につけてもらったかなと思います。薬剤師会は支持政党があるようで、免許を活用していない私は登録もしていませんが、介護保険のことや学校薬剤師の仕事の関連で見えておりますと、今街の薬局の果たす役割はとても大切になってきていると思います。

さて所属する東京・生活者ネットワークは、東京全体で都議会議員 6 人・区議・市議 55 人の女性議員を擁するまでになり、注目されてきています。しかし私たちの政治理念は、地方議員は国政政党の下請け機関ではなく、市民の代理人であり、特権的な議員を作らないとしており、歳費は市民の政治活動資金と位置付け、全額を独り占めしません。また任期は長くても 3 期 12 年以内で次の人と交代すると決めています。私も来年の統一地方選で次の人を立て、バックアップする側になる予定です。いずれは、高齢になっても地域で暮らし続けるために必要な機能（居場所・しごと・人材・・・）を作り出すことを夢見ております。

「京都散策」

（43 年卒）石 橋 嘉 夫

21 世紀最初の年も終わろうとした 12 月 4, 5 日の両日久しぶりに京都の旅を楽しんだ。さて、自分の記憶の中では女房と一緒に旅行で 2 日間の有給休暇をとったのははじめてのことである。今回休みをとらなければならなかったのは、京都の名所旧跡でも許可が必要な「仙洞御所」と「桂離宮」が宮内庁に申請したものが下りたからであった。

紅葉の時期を多少過ぎたかと思いながら、厚着をして昨夜から降り続けている雨の中を出発したが、幼稚園の遠足の様な気分で心が弾んでいたのも、あまり気にせずにスタートできた。京都駅に到着した頃には雨も上がり薄日が射す天気回復していた。ホテルに直行し荷物をフロントに預け、蛤御門から御所へ入り雨で少し濡れた玉石を踏みながらゆっくりと仙洞御所を目指した。約束の時間 20 分前に開門になり、申請書と本人が同じか否かの確認を受け、大宮御所正門を進んだ。20 数名が一団になって説明をしてくれる人に続いたが、流石に最後には皇宮警察官がついていた。

庭園は幾度かの改修があったようであるが小堀遠州造営の名残をとどめていて、ただただ驚きと溜息が入り乱れた。お庭の散策は基本は舟遊びであるとの解説は時代の背景を偲ばせ、今一度御舟着に目をやり、池面からの全景も想像した次第であった。約一時間の周遊はあっという間であり、願わくは紅葉の時期に少し遅れたのは残念であった。

翌日は快晴で少し汗ばむほどの陽気になった。今日は 13 時 30 分の予約ができて「桂離宮」を訪れることが大きな目的であり、午前中は近場の散策で時間を費やしたが、若い頃の神社、仏閣に対する想いと現在感じるものとの違いは何なのであろうか？言えるのは数ではなく質であり、一つの事柄をじっくりと研鑽しようとしているのか？あるいは幅広く手を広げる活力が消失しつつあるのかわからない。

四条阪急デパートから電車で約 20 分で桂駅に到着したが、時間も充分あり二人で歩くことにした。通りは旧道を思わせる様に大きな茅葺きの家も残っていたが、狭い道を平日ながら車の往来は多くあり、京都市内への通勤圏として発展していることが伺われた。歩くこと 20 分して桂川につき当たり、さらに川沿いに進むとそれらしきたたずまいが現れてきた。やはり車で見えられる人が多く、駐車場も完備していたが、玄関に続く庭に植えられている松の手入れは流石だと思われた。30 分も待ったであろうか開門があり待合室に案内されたが、受付では一段と厳しい視線でチェックを受けたのは印象的であった。

桂離宮の庭園は至る所に自然の風景を満喫させるように配置され、お茶を嗜まない私にも「茶の湯」の世界に引きずり込まれてしまいそうであった。沢山ある茶室の中でも「松琴亭」は自然との調和という意味で殊の外感激した。最高は「御殿」であることは間違いのないことであるが、私の浅学では及びも着かないものとしての存在であった。周遊した中で、「真、行、草」なる飛び石（延段）は、そこから続く何かを期待させるという仕掛けをさせているといった深い意味合いは、この庭園が醸し出す王朝文化を肌で感じる一時であった。

今までに経験したことがなかった世界への旅であったが、現在懸命に働き、こうして仕事から開放され、リフレッシュしている自分は自由がなかった約 400 年前の人達に比べて本当は幸せではないかと思いながら、帰路に着いた。

「榎本先生御叙勲を祝う会」開催

(47 年卒) 松本 茂外志

前物理化学教室教授、現富山医薬大名誉教授の榎本三郎先生は昨年秋の叙勲において勲三

等を受けられました。

このおめでたい出来事をお祝いしようということで、山田勇さん（42 年卒）、水島秀一さん（46 年卒）、横井秀輔さん（42 年院卒）の 3 名が幹事になり、昨年 11 月 23 日に鎌倉別邸ソサエティ（鎌倉）で「榎本先生御叙勲を祝う会」を開催しました。

昨年の NHK 大河ドラマ「北条時宗」は鎌倉が舞台であったこともあり、また紅葉の真っ盛りであったこともあり、鎌倉はたくさんの観光客であふれ返っていました。当日は、榎本先生は奥様とご一緒に参加していただきました。また、榎本先生が教授の頃助教授を勤めておられた井上正美先生（現富山大学工学部教授）と当時職員だった柏木寛先生、上山勉先生も参加され、たいへん楽しい和やかな会になりました。

教室出身者も全国から 20 名が集まり、旧交を温めあいました。会は井上先生のお祝いのご挨拶から始まり、参加者全員が榎本先生との思い出話や現況を報告しあいました。榎本先生との思い出話といっても、あまり勉強した話は出ずに一緒にボーリングに行った事や先生の自宅にお邪魔して奥様にジンギスカン鍋をご馳走になったことなどの話が出ていて大いに盛り上がっていました。

最後に榎本先生からご挨拶があり、勲三等といってもワッペンをもらったようなものと相変わらず毒舌を吐いておられましたが、大変うれしそうでした。先生は奥様とドイツ旅行に行かれた際に足を少し悪くされたようでしたが、いつまでもあの毒舌を我々に聞かせていただきたいものです。

薬窓会のホームページ

（48 年卒）中 西 憲 幸

インターネットの急速な普及により、ホームページの充実が著しい。医療関係では病院のホームページは従来、看板的な意味合いのものが多かったが、最近のものは、患者さんを見据えて、病院へのアクセスから診療内容まで非常にわかりやすく作成されている。病院のホームページの充実度と医療の質は異なると思うが、よくできたホームページをみると、病院の医療に対する姿勢がうかがえ、受診してみたいくなる。

製薬会社もほとんどの会社がホームページを作成しており、一般向けのページと医療関係者向けのページを有しているところが多い。医療関係者向けのページは医療用医薬品に関する情報が掲載されているため、ID とパスワードで管理されている。個々の会社の ID と

パスワードを覚えておくのは煩雑であるため、ソニーコミュニケーションネットワークが運営する医療関係者のホームページ「My Medipro」の会員（無料）になり、その ID とパスワードでアクセスすると、提携している約 40 社の製薬会社のページを自由にみることができる。

一方厚労省が運営している医療情報提供ホームページでは、医療用医薬品の添付文書情報や厚労省からだされた安全性情報はフリーにアクセスできる。そのため、製薬会社の医療関係者のホームページも医療関係者であることにサインをすれば、ID とパスワードなしにアクセスできるところが多くなってきた。さて、首都圏の薬窓会のホームページは 2 年前にドラフトが出来上がり、総会で発表されたが、その後諸般の事情により、富山医科薬科大学のホームページの中にある富山薬窓会には提携できていない。

この間に、富山薬窓会のホームページもリニューアルされ、新たに支部便りのコーナーも開設された。支部便りは遠久栄に掲載された各支部の 11 年総会のことが書かれているだけである。しかし、大阪支部が発展した近畿支部では、近畿支部の誕生と薬窓会サロン（仮称）の提案が掲載されており、首都圏支部より一歩先を越された。これに刺激を受けて、首都圏支部でも大急ぎで首都圏支部便りに、今年度の首都圏遠久栄に掲載する。この原稿を書いている現在はまだ未掲載であるが、今年度の首都圏遠久栄をみられている頃には、必ず掲載されていることをお約束する。

「食の未来への遺産と警鐘」

(58 年卒) 遠 藤 義 之

日本は、その歴史の中で非常に多彩な食文化を生み出したと言えます。記録では奈良時代頃から様々な調理法があり、魚や肉を塩と米により熟成させた「なれ鮓」や「酥」というバターに似たような乳食品、味噌や醤油の原型のような調味料も既にこの時代には使われていたようです。

平安時代になると更に調理が多様化し「延喜式」などに記録が見られます。鎌倉時代には大陸から多くの僧や技術者などの渡来人が大陸の食材や調理法を持ちこみ、日本の食文化は国際的色彩を帯びることになりました。近代に入って西洋やアジア各国からの料理が広まり、日本に居ながらにして世界中の多彩な料理を日常的に食べることができるようになりました。

また最近 20 年間はインスタント食品やファーストフードの普及もあり食習慣も大きく変わ

りましたが、これも食文化の一つと言えます。しかし、今日、食習慣を脅かすいくつかの事態が明らかになり、私達は未来の食について大きな関心を持つとともに、後世に優れた食文化と安全な食品を残すために行動を起こすべき時代が来たのではないかと思います。

近年大きな話題となっている BSE（牛海綿状脳症）はプリオン病と総称される神経疾患の 1 種ですが、プリオン病は細胞に存在する正常なプリオン蛋白質が構造変化により異常化することが原因であると考えられています。昨年から牛のプリオン検査や牛肉市場において非常に大きな波紋と消費者不安を起こす事態となり、また医薬品業界においても BSE に対する安全性対策が最優先課題となっています。

数年遡りますと、O-157 に代表される細菌感染が話題となりました。衛生環境や低温保存技術が確立されていなかった時代には細菌性食中毒は時々起こりましたが、刺身を始めてとして生で食材を食べる多様な食文化をもつ日本では、食中毒を防御する加工・保存の知恵も優れたものがあります。

しかし近年問題となった細菌感染は、耐性菌の増加や消費者の安全を軽視した社会モラルの欠如など、先人の知恵を超えた原因で生じています。更に大きな問題は、環境ホルモンと総称され、極微量で生体内でホルモンと同じような作用を示す化学物資の世界的な拡大です。環境ホルモンは現在判っているだけで 70 種類以上で更に 100 を超える種類の物質があると予測されています。これらを摂取するとホルモンバランスが乱れ様々な障害や病気を引き起こす原因となります。大気や水の汚染により食品が汚染され、意識せず長期に渡って摂取する危険性もあります。

現代人は、食への信頼に不安を感じながらも、健康への影響が直ちには顕在化しないために、意識せずに生活している実態があるのではないのでしょうか。情報技術やインフラが発達した今日、正確な情報を判りやすく且ついち早く公開し、安心した食材・食品が得られるような工夫が必要です。優れた知恵と技術の集積である食文化と安全な食品を次の時代に継承するために一人一人が何ができるかを考える時に来ているのではないのでしょうか。

中小病院におけるインターネットを活用した情報活動

（H3 年卒）嶋 田 修 治

かつて平成 5 年度遠久栄に東大病院勤務時代のことを書かせていただきました。今回再び投稿の機会をいただき感謝いたします。現在は病床数 47 床の病院および関連診療所の薬剤業務全般の統括責任者として勤務しています。東大病院で薬剤業務全般のことがおおよそ

把握でき、そろそろ外に出て新たなことをやってみようかなと思っていた頃、現在勤務している病院を紹介されました。

ところが中小病院勤務に対して一つの不安がありました。おそらく図書館は無いだろう、図書購入費も大学病院と比較すると雲泥の差があるだろう。そういう所に行くと情報からかなり立ち遅れてしまうだろうな？。しかしそんな私の不安を拭いさってくれそうな武器がありました。

我々医療従事者が日々の業務で発生した疑問点を解決する時に真っ先に利用するのが MEDLINE（米国医学図書館の作成する医学および関連分野の文献データベース）です。従来はデータをオンラインデータベースシステム提供会社や CD-ROM 会社に提供するだけであり、大学病院などに勤務していない者にとっては、なかなか手の届かないものでした。

ところが米国政府の方針によって米国医学図書館が自らインターネットを通してデータと検索システムをユーザーへフリーサイトとして直接提供するという方向に転じてきました。（PubMed：<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/PubMed/>）。私はこの流れがさらに加速し、インターネットを通じて多くの医療情報が得られるようになるのではないかと期待し、その可能性にかけてみることにしました。

着任と同時に職場でインターネットが利用できる環境を整えていただきました。現在のインターネットの普及は皆様をご存知の通りです。さて実際にどんなことにインターネットを利用しているかを少しご紹介したいと思います。一番は患者、看護婦および医師からの問い合わせに関してです。だいたいことは回答が可能になっています。

二番目は今流行の EBM（Evidence-based Medicine）に関してです。効果、副作用に関して薬剤を公平に比較検討し、採用医薬品の選定を行っています。また薬剤の適正使用に関する情報を作成し、院内各部署への伝達も行っています。術後の抗生物質使用に関しても改善することができました。これらはすべて PubMed で入手した情報に基づいています。

先日も薬剤的な面から静脈点滴注射剤の衛生管理に関する院内指針の作成をしてほしいと依頼があり、早速インターネットを利用して班研究の指針や CDC ガイドラインを入手し、当病院における指針作成に関与することができました。このように院内に立派な図書館がなくても、職場にパソコン 1 台あればかなりのことができる時代になりました。情報のバリアフリーは今後ますます加速すると思います。

製薬会社に就職して

(H11 年卒) 宮 脇 美 帆

就職し、東京での生活が始まって、一年が経とうとしている。会社の寮から一時間以上、満員電車で通勤する新しい生活にも大分慣れてきた。毎日新しい発見があり、新鮮な気持ちで日々を送っている。

大学 4 年生のときは和漢薬研究所の病態生化学部門で、抗癌剤の転移、浸潤の抑制メカニズムの解明に関する研究に携わった。大学院では、附属病院の薬剤部研究室で、植物由来アルカロイドの生物活性についての研究を行った。植物由来の糖に似た構造の低分子アルカロイドの持つ特性を解明していくのは、とても興味のあるものであった。安定性や、濃度設定など条件設定からのスタートであったが、最終的には実際にヒトの細胞を使った実験まで行うことができた。創薬の基礎の基礎を経験することができ、有意義な学生時代であった。

現在私は製薬会社の臨床開発部に所属している。研究所で基礎研究を経て有効であると認められた製剤が、今度はヒトに投与した時に有効であるのかをみるという大規模な研究に携わることになった。これからまさに治験が始まろうとしているチームに配属になり、以前までは漠然と頭にあった治験というものの現場で毎日仕事をするようになった。学生時代にいた分野から一步進んだ分野に入ることができ、大変うれしく思っている。臨床開発は全国の施設で実施される。施設では、医師、薬剤師、看護婦、治験コーディネーターと密にコミュニケーションをとる。

先日あるテレビ番組で、外国の治験の様子が取り上げられていた。患者さんの治療方法が治験により大きく左右され、患者さん一人一人がこれを了解して治験に参加している様子を拝見した。治験というのはあくまで施設で行われるものであり、会社側はそのサポーターであるということを実感した。多くの患者さんの協力を得て治験は行われ、そして新しい薬ができるのだということを忘れずに仕事に取り組んでいきたい。

配属になってから、これまでほとんど乗ることの無かった国内線にも乗るようになり、驚くほど行動範囲が広がった。スーツを着て上司に同行し、名刺を用意して病院に入る時は、社会人になったのだなと思う瞬間である。これからは、専門性を深め、この仕事の特色を活かして多くの人と接し、視野の広い人間になっていきたいと思う。

ゴルフクラブだより

(28 年卒) 千 原 秀 夫

第 60 回記念コンペ戦評

21 世紀第一回の、そして歴史を経て 60 回・30 年の薬窓会ゴルフコンペを、4 月 18 日埼玉県のエーデルワイスゴルフクラブで開催しました。

今回は上述のようにメモリアルコンペということで、会員諸氏にご満足頂けるコースで開催したいと、年末から両幹事・事務局間で数コースを候補に選び、その中から最終的に選んだのがエーデルワイスだったのです。

このコースは日本人でも珍しい英国人の設計によるゴルフ発祥の地イングランドのコースを思わせる、オールドスコティッシュ・デザインの正に記念すべきコンペにふさわしい名・難コースということでした。そしてこの難コースに初参加者 2 名（内女性 1 名）を含む 28 名の方が挑戦されたのです。

戦いは予想通りで、コースは丁度モーグルスキー場を横にしたような、つまりコブだらけのフェアウェーと、それはそれは深いバンカーがフェアウェー、グリーンサイドといわず口を開け、更に追い討ちをかけてグリーンはほとんどが 2 段でクネクネの上カップは端っこと、覚悟はしていたものの今でも夢に現れて来そうな難コースでした。

結果、驚くなかれこの難コースでただ一人gross 87 を出されたのが小国さん、そして高木さんの 91 を始めとして 90 台の方がなんと 10 名も…そしてもう一つビックリが初参加の女性布施米子さんがgross 95、hande 29 ネット 66、6 アンダーでトップだったのです。実は誠に申し訳なきことながら、当会では初参加者が優勝スコアだった場合は準優勝という決めのため、今回はこれまた驚きのネット 70・2 アンダーの女性プレーヤー川村博子さんが栄冠に輝き、支部長杯を取り切られました。

さてパーティーには参加者の他に当同好会のご長老で大先輩の須田さんがはるばる小山市から駆けつけて下さり、記念大会にふさわしく花を添えて頂きました。本当に有り難うございました。また今回は記念大会ということで、今までお預かりしていました別途積み立て年会費で記念品を差し上げようと計画し、参加者全員に個人名を彫ったネームプレートを付けた、小型のゴルフバック型ケース入り携帯用スチールボットを差し上げました。

第 61 回コンペ戦評

前回 60 回・30 年の記念コンペを終え、今回からまた心新たに（？）挑戦を始めることになりました。川村・久郷の両幹事さんと数箇所の資料で検討の結果珍しくパブリックでありな

からロケーションもよく、カートで回り、しかも料金もリーズナブルな「アドニス小川 CC」で 10 月 17 日開催となりました。

今回は 44 回卒の同期会とバッティングするなど事務局の不手際で村上さんの初参加もありながら 22 名とやや少ない参加数でしたが、半年振りの再会で朝の受付は大にぎわいでした。当日は本会としては珍しく雨、でもカートのお陰で影響も少なかったのですが…思わぬ伏兵モヤが立ち込め数メートル先も見えない悪条件となってしまいました。しかし午後には雨もほとんど止みもちろんモヤも晴れてつつがなく競技を終えることが出来ました。こんな悪条件の中でグロス 80 台が 2 人、90 台が 3 人もとは信じられない事でした。結局グロス 90、ネット 75 の島田さんが優勝。またベスグロは病魔に打ち勝って久々に参加の平井さんの 86 でこれはもう完全に脱帽でしたし、また準優勝の浅田さんもやはり病気を克服されてのグロス 100、ネット 77 はお見事でした。

この後はお待ち兼ねのパーティで、各賞の授与とスピーチとで果てることなしのにぎわいが続き、5 時前無地終了と相成りました。参加の皆さんご遠方を有り難うございました。なお同好会では新メンバーの加入を歓迎致します。楽しい会ですのでぜひお申しお越し下さいますようお願いしております。お申し込みは千原までどうぞ。

100 字通信

8 年卒 野口 正喜 「日本は経済も政治も全体が変わらなければならない大きな曲がり角に来ています。薬業界もその波をもろに受けて再編成の時代に入りました。日本発のグローバルプレイヤーが出てくることを期待している今日この頃です。

13 年卒 太田 賢助 前略 静かに老後を過ごして居ります。皆様方の益々の御健勝と御発展を御祈り致して居ります。

15 年卒 岩崎 光一 傘寿も過ぎると健康が一番！同窓会も今年から取り止めになり、今年は手紙等でお付き合いしていきたいと思っています。私は戦争も経験し、世の中の様々な変化を見て参りました。だからこそ、平和の世の中を願います。

15 年卒 須田 民三 平成 13 年度二八会東京葛西臨海公園内の江戸川ホテルにて開催しましたが中京関西・宮山地区より 1 名の参加も無く、北海道 1 名首都圏 5 名のみにて来年度以降の開催無理と考え協議の上二八会解散する事に決定しました。

17 年卒 渡会 春雄 今年 80 歳になるがやりたいことは沢山ある。病とつきあいながら

あせらずやって行きたい。老い先は下りではない。登って登りつめた所が「死」と思う。

24 年卒 齊藤 正巳 <http://www.seijo.co.jp/> 昭和 26 年に小さな成城薬局を個で開業し、お蔭様で昨年 12 月に創業 50 周年を迎えました。直営店舗 156 店、売上 322 億、昨年 9 月に東商 1 部に上場を果しました。今後は更に社会に役立つドラッグストアとして努力して行きます。

24 年卒 山口 輝夫 現役退いて 2 年目。今は週 1 日出社と月数回の薬業界の集りに参加。何とか生活パターンが決まって来ました。昨年 11 月に同期の「37 の会」に久し振りに出席。皆さん年相応に頑張っており、私も意を強くしております。

25 年卒 上野 淳一 他人からは若いですね、と言われますが、自分では体力の衰えを痛感しております。70 歳でサラリーマンを辞めて毎日が日曜日ですが、自分の日課作りに苦労してます。そんな意味で自営業の方が良かったかと思ってます。

25 年卒 深井 三郎 1970 年代から「今日の新薬」を執筆し、1990 年代に「近代医薬品の変遷」を副題に第 6 版を上梓しました。これらの小著を集大成し、「20 世紀の医薬品の歩み」と題して今春に電子出版する予定です。

28 年卒 千原 秀夫 薬窓会ゴルフは昨年 60 回を迎えましたし、今年は私も 6 回目の年男。ともによくぞここまでと感無量です。平均寿命からすると残りはあまりありませんが悔いのない余生をと遊びも学校薬剤師の仕事も楽しくやっています。

28 年卒 眞船 恒雄（近況報告・仕事）古稀を節目にフリーとなりました。今は頭のケアにパソコン、心のケアに写真と海外旅行体のケアに 1 日 1 万歩を実践中です。昨年はメール設定、中国とカナダ旅行、年間 422 万歩（大宮～熊本往復）今年も頑張ります。

29 年卒 基常 弘晃 調剤を始めて 6 年になります。患者さんの不安悩みを一処に担う気持ちでどうしたら少しでも期待に添うことが出来るのか「癒しの調剤」と称するものがあればそれは何か、を自分自身に問いかけながら励んでいます。

30 年卒 竹村日出男 日経パソコンを数年度、日経バイオビジネスを創刊から購読。新発売のパソコンのスペックをみては買い換えの衝動を押さえる楽しみ？一方はバイオによる再生医学実用化への好奇心から。ともにボケ防止に役立っているかも。

31 年卒 作田 充 健康維持に役立てばと気功・太極拳そして民謡・詩吟などを相次い

で遍歴。また食生活改善を目指して料理を修業中。さらには、世間の大きな流れの渦を、心静かに眺めて、生きたいと願う昨今でもあります。

31 年卒 細 信孝 気持ちは若いつもりですが、「古稀」を迎えることになりました。3K-「関心」「感動」「感謝」をライフスタイルのモットーとして、生活したいと思っております。

32 年卒 大杉光一郎 今年卒業して 45 年目の年となり、学生時代のことを忘れてしまっていたのですが、そうではなく古き良き時代の生活が鮮明に浮かんで来ており、若を懐かしく思い元気に過ごしています。役員の皆様ご苦労さんです。

32 年卒 □木 良造 定年後は、薬剤師職能を生かしつつ人生を楽しむ生活を送って来たが、最近、調剤薬局に転職した途端、忙しくなり、この目標維持が難しくなってきた。2 月末には、大学スキー部 OB の仲間達と志賀高原に行き、今流行のカービングスキーを教えてもらい、スキーと温泉を楽しんできた。

33 年卒 湊 秀夫 北海道のシマ臯が環境悪化で絶滅の心配ありとの記事が切っ掛けで外国への旅の先々で民芸品の臯を集めた。砂漠の多い国でも昔は緑深い地だった事が判り様々な材料で造られた北から南の臯達は、もう二百匹程並んでいる。

34 年卒 川村 長生 昨年 3 月から 42 年振りに富山に住むようになった。週 3 日は明群本社に勤めている 86 才の母と病身の義の世話をさせてもらうこととなった母に「してもらったこと」「感謝していること」「迷惑かけたこと」を思いめぐらし過ごしている。

35 年卒 籠瀬信夫 昨年 2 月より自宅から自転車で 10 分のドンキ環八世田谷店で週 4 日薬剤師をしています。週 2 回のジム通いと月 1 回のウォークは変わらず続いています。昨年は 7 月に谷川岳に登りました。今年は木曽御岳山に登る予定です。

35 年卒 京泉 清男 標題：世界がもし 100 人の村だったら（マガジンハウス社）「今朝、目が覚めたとき あなたは今日という日にわくわくしましたか？あなたは今日という日に満足できそうですか？」すぐに「はい、勿論」と言えなかったあなたにこのメールを贈ります。100 人のうち 61 人がアジア人です、13 人がアフリカ人、13 人が南北アメリカ人、12 人がヨーロッパ人、あとは南太平洋地域の人です。すべてのエネルギーのうち、20 人が 80%を使い、80 人が 20%を分け合っています。銀行に預金があり、財布にお金があり、家のどこかに小銭が転がっている人は、いちばん豊かな 8 人のうちの 1 人です。ぬるま湯にどっぷりと浸かっている小生の心には強烈な一撃でした。ほんの一部分ですが紹介

させて頂きました。

36 年卒 川上 淳 各地でスキーマスターズ大会が開催される。昨年は富山スキーマスターズ大会に参加。60 歳台で 3 位入賞、地元の新聞に記録が出て、仲間からコピーが送られてきた。当日は富山市内でスキーの後輩と祝杯をあげた。今年も！

36 年卒 中嶋 啓 「達磨さん、こっちむきやんせ世の中は、月雪花に酒と三味線」。そろそろ仕事をやめて、好きな遊びをしたいと思いますが、周りには仕事を続けている先輩や同級生が多く、「退職後の生甲斐、未だ霧の中」の状況です。

36 年卒 船場 定信 定年後、ドラッグストアの調剤師に 2 年半ばかり従事しましたが、昨年 9 月より、スーパーの医薬品コーナーで相談接客をという事に転じました。これまでの経験が役にたてばと考えていますが、諸先達のご指導をお願いします。

36 年卒 安宅 久弥 第二の職場を DS に求め感じた事を記します。少子高齢化が加速的に進行している現在お客は自分と家族の健康増進を求めています。今後その相談の窓口として地域のセルフメディケーションを推進してまいりたいと思います。

37 年卒 川村 博子 行きたいと思っていた中国旅行をすることになった。北京と上海そして三国志めぐりだ。計画は全て娘まかせで、三月の半ば過ぎ、三人の旅行どの様なことになるのか楽しみです。

38 年卒 宮澤 英雄 少しずつ、本当に少しずつだけど、ゴルフ、テニス、囲碁がそれぞれ上達してきているように思う。いや、そう思いたいのかな？それにしても、つくつもく感じるのだけど、上には上があるものだ。当たり前のことだけど。

39 年卒 西 正義 3 年前に始めた調剤薬局とそれに関連する特養老人ホーム支援の仕事に忙しくしております。患者さんとお年寄りのために働けることをありがたいことと思います。

42 年卒 庄司 幸子 いつもお世話様です。卒業して 35 年、末娘がいよいよ大学卒業です。長女は 2 児のママとして宮崎に、長男は札幌で仕事についています。私は細々週二日の薬局勤務、主人共々元気でそろそろ老後対策を！そんな昨今です。 100 字通信 〈3〉

43 年卒 石橋嘉夫 この一年の間に会社の同期入社の人と大学同時入学の親友が癌で他界した。何れもスポーツ万能であったが、自分達の年代で死を感じた事がなかったので、人

生の儚さを思わされる一方生きる重みを感じている。

47 年卒 松本茂外志 今から 8 年前。当時は多角化が叫ばれた時代で中外製薬もご多分に漏れず新規事業として医療用具事業を始める。一昨年末、この事業の撤退を決定。今年の 3 月で 99 ヶ月の新規事業のドラマは完全に終了する。

47 年卒 井本 直樹 初台に転居して一年数か月が経過したが、三田に在住の時と異なり地元との交流は今一步。週末は、小石川、目白、池袋方面にて従来のテニス仲間と夫婦共に汗を流している。テニスの技術向上も今一步だが、体が続く限り永く付き合いたいと思っている。

48 年卒 中西 憲幸 飲み屋でお誘いを受けた「江戸を歩く会」に夫婦で参加して、2 ヶ月に一度のウォーキングを楽しんでいる。春には葛飾柴又周辺のお寺を散策、昼食は川魚料理に舌鼓を打ち、矢切の渡しで江戸川を渡る。寅さん記念館で在りし日の渥美清を偲ぶ。

58 年卒 遠藤 義之 日本の歴史・文化・芸術について、自由に情報や意見を交換し、心の豊かな生活を作ることを目指すネットワークのお仲間を募ります。気軽に関心のある方は、電子メールなどでお知らせ下さい。

62 年卒 今井 克也 知らぬ間に富山を離れて 15 年。大阪、東京と異動してきましたが、医薬品業界の外にいたので、同窓生に接触する機会があまりありませんでした。薬窓会の活動に参加してみて、同窓生のネットワークが機能している医薬品業界にいらっしゃる方々を羨ましく感じているところです。

平成 3 年卒 嶋田 修治 大学を卒業して 11 年。再び母校で学ぶことになりました。機会を与えていただいた皆様には大変感謝しております。解明したいテーマがあり、限られた時間で結果が出せるよう、最大限の努力をしたいと思います。

平成 11 年卒 宮脇 美帆 昨年、医薬大大学院を修了しました。現在、医薬大近くの寺町には「悠々」とよばれるニュータウンができ、富山大近くには、トイザラスを含むショッピングモールができています。新しくなった母校の街に是非遊びに出掛けて下さい。

平成 12 年卒 小貝 明子 大学を卒業して早 2 年が経とうとしています。卒業後も富山が縁で素晴らしい方々と出会いがあり、「4 年間の大学生活を富山で過ごせてよかったな」という私の思いをより一層強くしています。これからも多くの出会いを大切にしていきたいです。

編集後記

富山薬窓会総会が 3 月 8 日に富山医科薬科大学で開催されるので首都圏支部代表として参加してきた。

当日は森会長の司会の下で議事の進行が行われた。平成 13 年度の事業報告と決算報告が行われた後、14 年度の事業計画と予算案の発表が学内常任理事の倉石先生からあった。来年度の事業の中で目新しいものが 2 つあった。

一つは薬学部入学直後の一年生を対象に薬学概論のセミナーを開催する企画である。5 月頃に 1 年生を一堂に集め、卒業生のなかで社会で活躍している人のなかから 3 名位講師として呼んで、薬学部卒業後の社会での活躍ぶりを披露して貰おうという企画である。最近では薬学部にも目的意識をもたないで入ってくる人が多く、この企画で新入生が薬学を勉強する動機付けになればと考えて企画したと発表していた。大変面白い企画で、どうせなら私たちの仲間の中からも講師を派遣したいものだ。

もう一つの企画は、今年秋に薬学部創設 110 周年記念行事を開催するという企画である。この企画は総会で了承されたが、その時に支部と本部とのコミュニケーション不足が問題提起されていた。もっと、本部は支部の活動に関心を示すべきとの意見だった。

しかし、本部との連携を議論する前に、支部自体が今のような活動状況で良いのだろうかというのが私の気持ちである。首都圏支部は会員数約 1000 名。年会費を払ってくれる人が約 250 名。財政的に苦しいのは当たり前で、せめて 5 割の人が年会費を払ってくれるだけで、随分運営は楽になる。では、会員の意識を高めるにはどうしたら良いのだろうか。

総会の帰りに近畿支部の濱島支部長と出会い、近畿支部の現状を聞かせて頂いた。首都圏支部は近畿支部と比較すると残念ながら活動はやや鈍い。しかし、別れ際にいいことを一つ聞いた。とにかく駄目で元々という考えで会員に対し情報を発信しつづけることが大事だといっていた。今の時代、メールという格安の情報伝達手段があるので、これを使い情報を流しつづけることによりひとりでも多くの人が参加するように仕組んでいこうと思う。今後は近畿支部の情報も流してくれるとのことだったので、他支部の情報もどんどん流してみたい。

今年の総会（6 月 1 日、大手町 サンケイプラザ）は話題提供者として（株）パソナ代表取締役社長 上田宗央さん（58 回、46 年卒業）をお呼びすることにした。薬学部を卒業した

人は同じようなキャリアの人が多く、上田さんのような方は珍しく、総会の時にどんな話が飛び出すか今から楽しみである。一人でも多くの人に参加してもらい、同窓の絆を深めたいと思っている。

(編集者 幹事長 47 年卒 松本 茂外志)